

作物統計調査
令和6年産水稻の収穫量（宮城）

— 10 a 当たり収量は583kg —

- 1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は6万2,800ha（前年産に比べ1,900ha増加）となった。
うち主食用作付面積は5万8,400ha（同1,200ha増加）となった。
- 2 水稻の10 a 当たり収量は583kgとなった。
これは、全もみ数が、田植え期以降おおむね天候に恵まれ平年に比べ多くなり、登熟（もみの肥大、充実）が、出穂期以降おおむね天候に恵まれ平年並みとなったためである。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は36万6,100 t（前年産に比べ2万1,400 t 増加）となった。このうち、主食用の収穫量は34万500 t（同1万6,700 t 増加）となった。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は107となった。

図1 作柄表示地帯別10 a 当たり収量
（1.70mmのふるい目幅ベース）

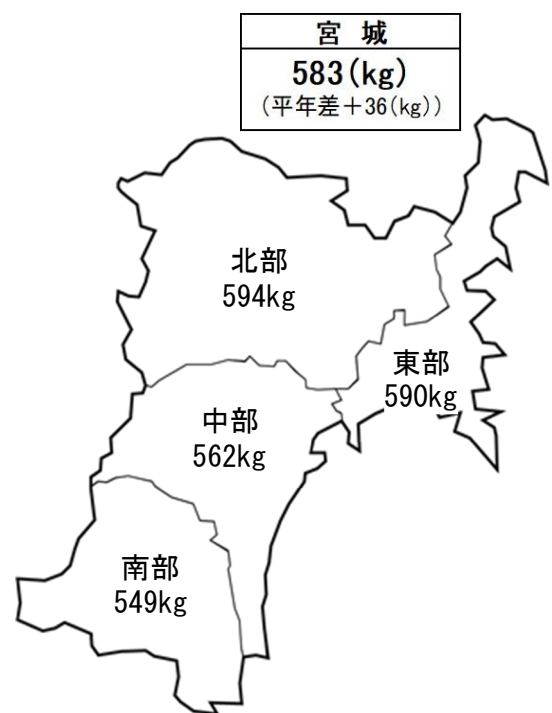
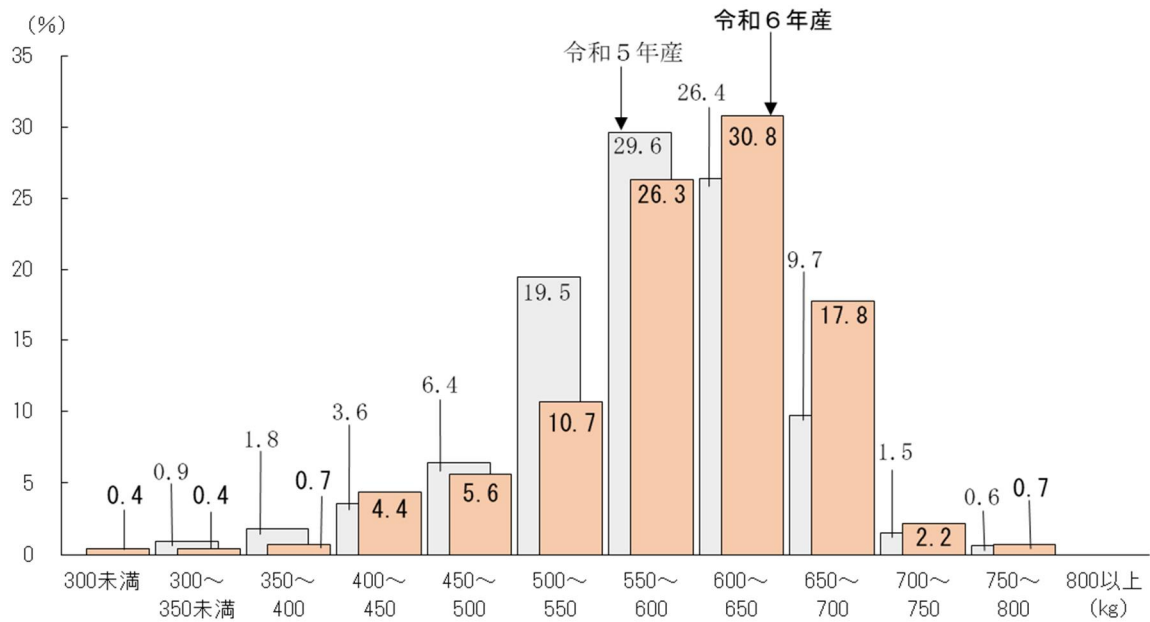


表 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分		作付面積（子実用）			10 a 当たり収量			収穫量（子実用）			主 食 用 作付面積	収 穫 量 （主食用）	作況指数
		実数	前年産との比較		実数	平年 との比較	前年産 との比較	実数	前年産との比較				
①	対差	対比	②	対差	対差	③＝①×②	対差	対比	④	⑤＝④×②	⑥		
宮 城		ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
	62,800	1,900	103	583	36	17	366,100	21,400	106	58,400	340,500	107	
	南 部	6,260	△ 30	100	549	27	7	34,400	300	101	…	…	106
	中 部	11,300	400	104	562	30	15	63,500	3,900	107	…	…	106
	北 部	37,900	1,400	104	594	39	17	225,100	14,500	107	…	…	107
東 部	7,350	120	102	590	40	26	43,400	2,600	106	…	…	107	

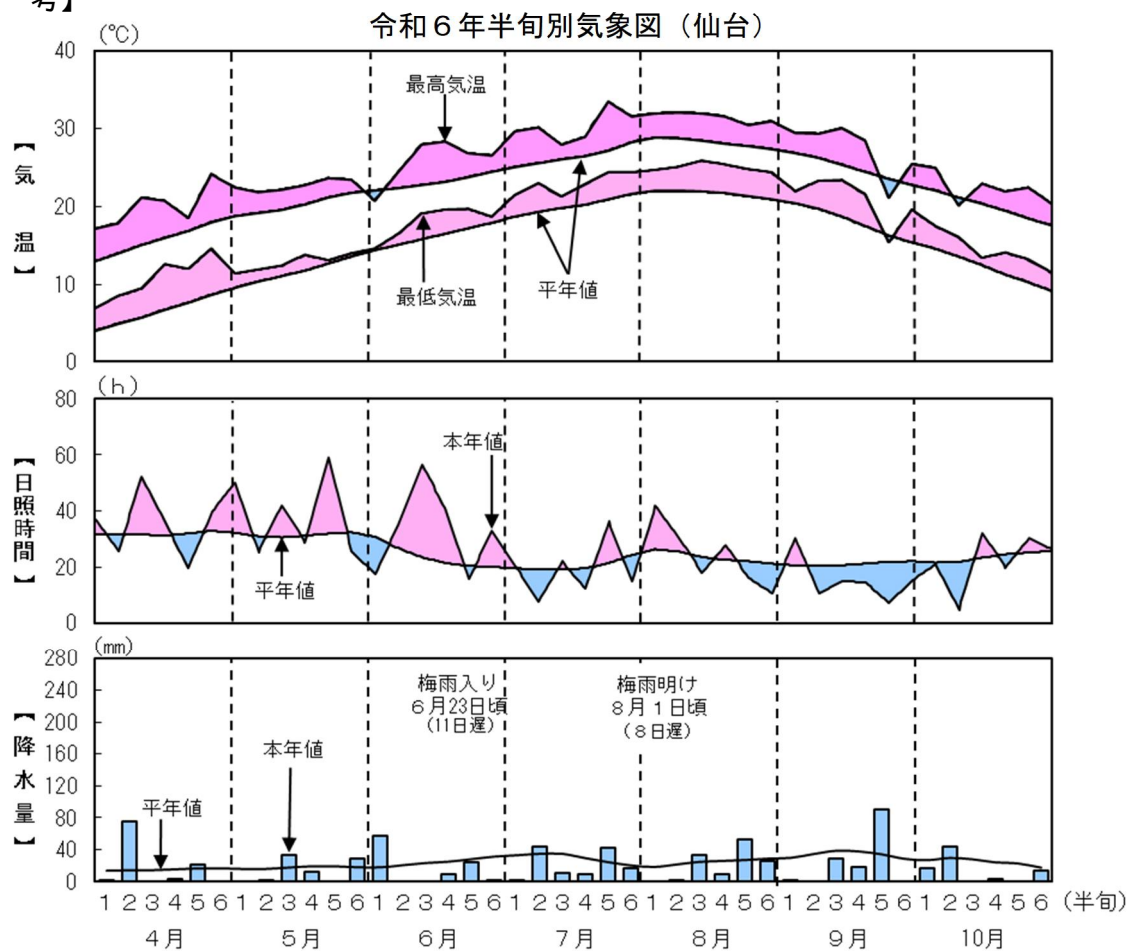
注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WC S用稲等を含む。）を除いた面積である。
2 10 a 当たり収量、収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた面積である。
4 作柄表示地帯別の主食用作付面積及び収穫量（主食用）は、飼料用米、備蓄米、加工用米等の作付面積を把握していないことから「…」で示した。
5 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、過去5か年（平成30年産～令和4年産）に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（宮城県は1.90mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。

図2 令和6年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重分布状況（宮城）



注：令和5年産の300kg未満、5年産及び6年産の800kg以上の作況標本筆はなかった。

【参 考】



資料：気象庁ホームページ

注：() 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 統計部 統計調査担当

電 話：022-745-9381（直通） 内線 4750